

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	白糸中学校	階数	地上4F
建設地	京都府舞鶴市	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	645 人
気候区分	地域区分Ⅲ	年間使用時間	2,300 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年3月 予定	評価の実施日	2009年10月13日
敷地面積	18,648 m ²	作成者	神先 誠司
建築面積	3,244 m ²	確認日	
延床面積	8,163 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の低減や自然との共生を考慮した施設とし、環境や省エネルギーに配慮する。 地域住民のコミュニティ機能も持たせ、地域に親しまれる学校とする。 防犯に十分な配慮を行うと共に、安全に利用できるユニバーサルデザインとする。 断熱、夏季に日射遮蔽、通風の確保などにより、一年を通じて過ごしやすい生活環境を創出する。 	その他 (注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> 通気や採光を十分確保できる開口部を設ける一方、庇等でグレアを制御する。 化学汚染物質に配慮した材料選定とする。 	Q2 サービス性能 <ul style="list-style-type: none"> 外部仕上材に防水形吹付材を使用し、随所に水切りを設置することにより壁面の汚れ対策を行う。 ラーメン構造により空間形成の自由度を確保し、間仕切り変更等に対応できるようにする。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り高効率機器・器具を採用し省エネルギーを図る。 	LR2 資源・マテリアル <ul style="list-style-type: none"> 節水へ積極的に取り組む。 躯体、仕上材、設備の解体が容易に行える。 汚染物質含有材料を使用しない。
		Q3 室外環境(敷地内) <ul style="list-style-type: none"> 舞鶴市を象徴するレンガ倉庫のデザインを一部取り入れ、周辺のまちなみとの調和を図る。 可能な限り敷地内の緑化を図る。 施設の一部を地域開放可能な計画とする。
		LR3 敷地外環境 <ul style="list-style-type: none"> 舗装材の一部に透水性の材料を用い、周囲に対する影響の低減に配慮する。 駐輪場及び駐車場を十分確保する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい